



足立区教育委員会では SDGs 教育を推進しています。

足立区立関原小学校

校長名 吉丸 清昭

### 取り組み 1 児童の健全な心身を育成する教育



○「お誕生日給食会」や「表彰朝礼」という学校全体でお互いを認め合う場を中心として、学校全体の連帯感や一体感を高め、児童の自己肯定感を高めることで、心身の調和のとれた児童を育成する。



- 都体力調査の結果を踏まえ、筋力向上を目的としたトレーニングを取り入れ、体育や体育的行事など、教育活動全体における適切な運動経験の機会を増やし、体力の向上を図る。
- 生活リズムカードを活用した保健指導や食育指導を充実させ、健康教育を推進する。
- 食育指導では、「もりもり給食ウィーク」「魚沼コシヒカリ給食」「小松菜給食」などの取り組みを行い、残菜0を目指して指導を行う。

### 取り組み 2 確かな学力の定着に向けた学習活動



○基礎的・基本的な知識・技能の習得のために朝学習や家庭学習を計画的に行う。  
 ○課題を解決する上で必要な思考力、判断力、表現力などの能力を高めるために、問題解決的な学習の充実を図り、児童に「分かった」喜びを味わわせて自信を育てる。



- 区や国の学力調査や MIM の結果から、児童の課題を系統的に分析し、「読み、書き、計算」を中心とした基礎的・基本的な学習を通して朝学習、放課後補習を計画、実行する。
- 効果的な反復学習、主体的・対話的で深い学びのためにタブレットを活用する。

### 取り組み 3 児童の状況に応じた支援の充実



- WEBQU 等を活用して実態を把握し、いじめを未然に防止するため、いじめ防止対策委員会を中心に迅速かつ組織的な対応を行う。
- 「学校いじめ防止基本方針」を軸に、児童アンケートによりいじめまたはいじめにつながる行動を把握し、いじめ防止対策委員会を中心に組織的な対応を行う。
- 不登校傾向のある児童へは、「不登校対応マニュアル」を生かし、家庭や関係機関との連携を強化し、組織的な未然防止と社会的な自立に向けた支援を積極的に行う。
- 特別支援教室委員会を定期的に開催し、学校生活支援シートや個別指導計画を基にして、個に応じた指導や指導方法を定期的に検討し実施することで特別支援教育の充実を図る。
- 特別支援学級と通常学級の交流学習を行い、人との関わりを通して豊かな人間性を育成する。

## 取り組み 4 教育施設の整備と学校運営の充実



- 校内のICT機器の活用に努め、情報モラルを含めた情報活用能力を育成する。
- 開かれた学校づくり協議会との連携のもと、あいさつ運動や土曜チャレンジ教室などに取り組み、学区域の人的・物的資源の効果的な活用を行い、地域と協力して児童の主体的、体験的な活動を行っていく。
- ホームページにて「Sekibara Times」を日々更新することで情報を積極的に公開し、教職員が保護者、家庭、地域と日常的に協働して教育活動を行い、信頼される学校づくりを推進する。

## 取り組み 5 児童が社会とかかわる力を育むための成長支援



- 学びの連続性の観点から、幼稚園・保育園と交流を積極的に行って幼保小の連携をより充実させ、「あだち幼保小接続後期カリキュラム」を活用し、小1プログラムの改善を図る。
- 児童や学校、地域の実態を適切に把握し、教育内容や時間の配分や必要な人的・物的体制の確保、教育課程の実施状況に基づく改善等を通して教育活動の質を向上させ、学習の効果の最大化を図る。
- 児童一人一人がSDGsについて自らの課題と考え、解決していくための資質・能力を教育活動の質の向上を図りながら意図的・計画的に育成していく。

## 取り組み 6 広い視野と高い指導力をもつ教員の育成



- 「足立スタンダード」に基づく授業実践を積み重ね、教師の授業力向上を図る。
- 主体的・対話的で深い学びの実現に向け、教材研究、授業研究を通じた指導方法についての校内研究を行う。
- GIGAスクール構想の実現のために、研修や事例報告会を通してICT機器やAIドリルを効果的に活用した個別最適な学びの実現やプログラミング教育を推進する。
- 年間7回小中連携の研究会を行い、授業研究を各校6教科年間3回実施し小中9年間を見通した教師の授業力向上を図り、学校経営を充実させていく。